



平成26年5月15日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦
(TEL. 04-7131-0181)

業績予想等と実績値との差異に関するお知らせ

当社が、平成25年11月14日に公表いたしました平成26年3月期連結業績予想につきまして、以下の通り実績値との差異をご報告いたします。なお、当社は単体に係る業績予想の開示は行っておりませんので、当社単体の前期実績と当期の実績値の差異につきましても合わせてご報告いたします。

記

1. 平成26年3月期連結業績予想との差異（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,700百万円	700百万円	750百万円	70百万円	1.50円
今回発表(B)	8,703百万円	413百万円	482百万円	▲43百万円	▲0.93円
増減額(B-A)	3百万円	▲286百万円	▲267百万円	▲113百万円	—
増減率(%)	0.04%	▲40.93%	▲35.73%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	7,405百万円	758百万円	928百万円	101百万円	2.18円

2. 連結業績予想との差異理由

平成26年3月期通期の実績につきましては、売上高はほぼ業績予想通りの8,703百万円となりました。

売上高につきましては、ゴム事業が受注低迷より苦戦しておりますが、グループ全体では、前年比約17.5%増と大きな伸びとなりました。これは主にタイヤ、カンボジアのファイナンス事業の契約件数の大幅な伸びが、ゴム事業の不振を穴埋めし、売上高を大きく引き上げたものであります。

一方、営業利益は、前回予想を286百万円下回る 413百万円（前回予想比▲40.93%）、経常利益は267百万円下回る482百万円（同▲35.73%）、当期純利益は113百万円下回る▲43百万円となりました。これらの修正

の主な理由といたしましては、主にソフトテニス関連事業及びテニススクールを行うスポーツ事業が引き続き好調に推移し、さらにコンテンツ事業も新規事業部を立ち上げその滑り出しも堅調に推移したものの、ゴム事業は、受注低迷が収益面にも大きく影響いたしました。また、ファイナンス事業につきましても、引き続きタイ王国における既存事業の拡大やカンボジア王国での事業展開に向けた先行投資的な費用が発生していることに加え、タイ王国国内の景気動向を勘案しリスクマネジメント費用が増加し以上の結果となりました。

3. 平成26年3月期個別業績と前期実績との差異（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	240百万円	▲243百万円	▲417百万円	▲8.98円
当期実績(B)	264百万円	851百万円	98百万円	2.12円
増減額(B-A)	23百万円	1,094百万円	516百万円	—
増減率(%)	9.73%	—	—	—

4. 前期実績との差異理由

平成26年3月期の実績につきましては、売上高は9.73%増加し264百万円となりました。これは業績の良好な事業部門からの手数料収入等が増加したことによるものであります。

経常利益につきましては、増収に伴う増益に加えて、当社100%連結子会社の株式会社ルーセントとショーワスポーツ株式会社の合併に伴い、存続会社である株式会社ルーセントの財政状況が改善いたしましたので、貸倒引当金戻入益379百万円、投資損失引当金戻入益502百万円が発生することとなりましたので、前期と比較し1,094百万円の増益となり、851百万円となりました。

また、当期純利益につきましては、経常利益で大幅な増益となりましたが、合併に伴う株式会社ルーセントの株式簿価評価の見直しを行うことで、関係会社株式評価損失750百万円が発生することとなりましたので、前期と比較し516百万円の増益の98百万円となりました。

尚、当該貸倒引当金戻入益、及び投資損失引当金戻入益、並びに関係会社株式評価損の詳細につきましては、本日当社が公表いたしました「【営業外収益】貸倒引当金戻入額の発生、及び【営業外収益】投資損失引当金戻入額の発生、並びに【特別損失】関係会社株式評価損の発生に関するお知らせ」及び「平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」を合わせてご確認ください。

以上